

第 回 Elementaryコース学習内容認定証

様

貴殿は以下のElementaryコース内容について学習されたことをここに証します。

学習年月日: 2016年 月 日 学習場所: 静岡県御殿場市TACMEDA研修センター

コース運営

コース医療管理

コース教育管理

TACMEDA理事長:

医師:

歯科医師:

区分		学習内容	内容の詳細
有事医療の概念と基礎知識	平常外傷救急治療システムと有事医療システムの違い	「適者生存の医療」への思考の切り替え方 自動: 個人がすべきこと 共助: 相互にすべきこと 公助: 体制・態勢が支えるべきこと	
	平常外傷救急治療と有事医療の状況判断と時間概念の違い	ゴールデンアワー-ゴールデンピリオド-プラチナムタイム 4R(The Right care to the Right causality at the Right location and Right time) 「適切な治療を必要とする負傷者に適切な場所で適切な時間で提供すること」 平時の「固定的状況判断」と有事の「動的状況判断」Dynamic Processの違いと解説	
	有事医療の最も重要な考え方“PPS”	Protect 防護・外傷の予防 Project 救護・治療能力の提供 Sustain 生命の維持・任務の継続	
	有事医療の最重要段階“SABACA”サバカ	Self-Aid 負傷者自身による救護 Buddy-Aid 負傷者相互による救護 Civilian-Aid 市民への救急処置の提供	
危険からの防護	個人防護具の基礎知識と装着方法	感覚器(目、耳、鼻)の保護具取り扱いと装着法 PALS:Pouch Attachment Ladder System 装備品の取り付けシステム 防護レベル区分 NIJ I~IV 防護ベストの特性機能と正しい着用法	
	銃砲の機能と安全な取り扱い	(1) 銃砲の区分 (2) 銃砲の構造・機能と安全化 (3) 銃砲の緊急の安全化 (4) 銃砲の完全安全化	
	銃砲の安全な携行法・射撃法	(1) 拳銃の安全な携行法・射撃法・故障排除法 (2) 小銃の安全な携行法・射撃法・故障排除法	
	戦場で発生する特殊熱傷への対処	焼夷剤、着火剤の消火法と処置法	
戦闘外傷の基礎知識	受傷原因	爆傷分類と砲弾、爆弾、IEDによる外傷の違い	
	戦闘外傷の実際	低速弾銃創と高速弾銃創の違い	
	救急処置方法	防護ベスト外傷 ヘルメットと爆傷、頭頸部外傷の関係	
戦闘外傷への救急処置	EFAK Elementary First Aid Kit 最小構成 救急品 の使用法	IFAK: Individual First Aid Kit 個人携行救急品について EFAK: Elementary First Aid Kit 必須救急品について EFAK構成 (携行品のモジュール化) 内容品の収納方法 EFAKの運用 警察官や兵士がEFAKを1個携行する目的、MEDICやTEMPがEFAKを4~8個携行する理由 使用目的 LLE: Life Limb Eyesight 救急処置・応急処置・応急治療・後送・根本的治療に一貫する方針 Life 生命を守れ Limb 手足を残せ Eyesight 視力を残せ	
		止血帯CATおよびSOFTT-Wの単体使用法	(1) 構造・機能 (2) 収納方法 (3) 救命器具としての使用法 (4) 出血制御用器具としての使用法 (5) 自分自身で装着する方法(上腕部・大腿部) (6) 他人に1人で装着する方法(上腕部・大腿部) (7) 他人に2人で装着する方法(上腕部・大腿部)
		圧迫止血用包帯の単体使用法 EB: Emergency Bandage TB: Trauma Bandage OLAES: OLAES® Modular Bandage	(1) 構造・機能 (2) 収納方法 (3) 四肢外傷への使用法 (4) 前額部外傷への使用法 (5) 下顎部外傷への使用法 (6) 頭部外傷への使用法
		圧縮ガーゼの単体使用法	(1) 構造・機能 (2) 頭部外傷への使用法 (3) 四肢離断面への使用法
		アイシールドの使用法	(1) 戦場や災害時での被覆方法 (2) 沈子(ちんし)としての使用法
		止血帯と圧迫止血用包帯の併用使用法	(1) 圧迫止血用包帯で出血を制御できる場合 (2) 止血帯を用いなければ出血を制御できない場合
		圧迫止血用包帯と圧縮ガーゼの併用使用法	(1) 肩部貫通銃創の出血制御法 (2) 膝下部貫通銃創の出血制御法 (3) 鼠径部貫通銃創の出血制御法 (4) 止血帯を適用できない部位の処置法 (5) 防護ベスト着用時の処置法 (6) 防護ベストを処置用器具として使用する
		衣服裁断法	(1) 安全カッターによる方法 (2) 安全はさみによる方法 (3) はさみ、ナイフによる方法 (4) 身体汚染を90%除去できる裁断方法
		体幹部外傷とその処置法	(1) 胸部外傷で防護ベストが銃弾の貫通を阻止した場合 (2) 胸部外傷で銃弾が身体を貫通した場合 (3) ナイフにより腹部を切られた場合胸部外傷の評価法 (4) 体幹部穿透性外傷の評価法(重点観察と四肢麻痺の確認) (5) 防護ベストの処置器材としての利用法 (6) 開放性気胸に用いる包帯材料と構造・機能 (7) 安楽体位(Bullet Drop Position)
		頭頸部外傷の予防	(1) 頭頸部外傷とヘルメットの関係 (2) 頭頸部外傷を予防するための保護具 (3) 頭頸部外傷を予防するためのヘルメット装着法 (4) 頭頸部外傷の救急処置(SAMスプリット・圧迫包帯)
負傷者発生時の対応法	負傷者発生時の対応法	(1) 平時の救急医療における「ABCDE」アプローチ (2) 重要影響対処事態における「Call A CAB' N Go HOT」アプローチ (3) 戦場における「SAFE-MARCHE」アプローチ	
対テロ行動	屋内戦闘における銃撃戦での救急処置 四肢銃創を例とした、 Care Under Fire 「絶対的危険地域での救護」 Tactical Field Care 「相対的安全地域での救護」 についての区分の理解	(1) 負傷者発生時の初期対応 (2) 救急処置の実施場所の選択方法と処置の実施方法 (3) 部隊の機能分化と再編成、任務継続方法と各人の役割 (4) 絶対的危険地域での救出・救助 (5) 相対的安全地域での救急処置 (6) 救急処置後の輸送準備	
野戦での第一線救護	車輛移動中に遭遇したIED爆発への対応行動 四肢爆傷総合実習	(1) IED爆発時の初期対応(チェック5-25) (2) 遠隔医療評価 (3) 状況判断 (4) 複数四肢離断負傷者の救出・救助 (5) 救急処置後の輸送準備 (6) 担架搬送法: 部隊携行救急品WALK(Warrior Aid and Litter Kit)の使用法	